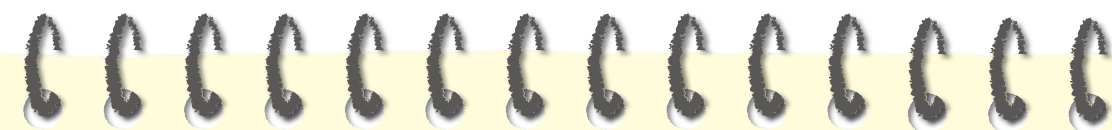


父が68歳で末期胃がんになりました。私は父と共に具合が悪くなり、布団から起き上がれなくなり非定型精神病と診断されました。会社を辞めてデイケアに通うようになり、最初は何も行きませんでした。そのような中でも、散歩は生活リズムをつくるのに大いに役立ち、雪柳や連翹等、四季で変化する草花の観察は楽しく感じられました。私の住んでいる新しく開かれた町に植えられている木蓮はすばらしく、白い花は辛夷より大きいようで、私の好きな米国の女性画家ジョージア・オキーフのように画面に大きく描いてみようと思いました。(太多和 浩)

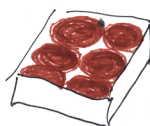
作者はデイケアで毎日午前中の時間はキャンパスに向かいアクリル画を制作しています。この木蓮の作品も、約1カ月間かけて、一筆一筆丁寧に仕上げたものです。この作品のようにデイケアメンバーたちも慕う柔らかな存在です。(担当 OT：友綱英二)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。

二十九年五月七日



お父さん退院したら
弁当においなりさん
作ってあげるからね
一所懸命作るよ

一條絹江「大好きなお稲荷さんを作ってあげたい」

13年前の病気で手足に麻痺がありましたが、宮城病院でリハをして絵を描いたり、お習字をしたり、夫や息子にキンピラゴボウや焼き肉のお弁当をつくってあげられるようになりました。お料理が大好きです。再発があり、今はリハのために入院しています。夫がお稲荷さんが大好きなので、退院したら片手で油揚げを煮て、何とかつくってあげたいです。喜んでほしいです。(一條絹江)

明るい笑い声を響かせる太陽のような方です。思いを絵に描かれる姿は、私たち OT も励まされます。(担当 OT：高橋美幸)